

1 主 題 「マラソン大会」 2-(3) 信頼・友情

2 主題について

3年竹組はとても活発な児童が多いクラスである。友達関係についても積極的に関わろうとする児童が多い。友達ととても楽しく過ごしている。しかし、相手の気持ちを考えずに安易な言葉を発し衝突するときもある。友達を理解するとは、相手の考え方を受け入れることである。相手のことを理解しているからこそ、相手の言動を信頼できる。お互いに苦手なことをアドバイスし合い高め合うことで、友情を深めることができる。そこで日常生活の様々な場面を設定し児童の良さを引き出していく。それらを児童がみつけていくことで、お互いのことを理解しようとする心を育てていきたい。

3 本時の授業 (1/1時)

(1) ねらい

- ・ 友達のことを理解し、信頼し、助け合おうとする態度を養う。

(2) 本時の評価規準

- ・ 友達の存在を認め、共に高め合うことができる。

(3) 準備・資料

- ・ 教 師：場面絵、黒板貼付カード、道徳プリント

(4) 過 程

学習課題

主な発問

言語活動に関する事項

段階 時間	学 習 活 動	・留意点 <input checked="" type="checkbox"/> 支援 <input type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 道徳的価値との関連
気 付 く 5 分	1 友達とどんなことをするか発表する。 ・ 学校で一緒に勉強する。 ・ 休み時間に遊ぶ。 ・ 給食を食べる。  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">友達について考えよう。</div>	・ 普段の友達とのつきあい方を振り返らせ、多くの場面で友達と一緒にいることを確認させる。
深 め る  3 7 分	2 資料「マラソン大会」の範読を聞く。  3 前半部分の資料の内容をつかむ。 (1) はじめの日のさおりとナミの様子を思い出す。 さおり 走れなかった ナミ 「走れるよ」 (2) 次の日のさおりとナミの様子を思い出す。 さおり 走れたけど遅い ナミ 「スッスッハッハッ」  4 さおりの気持ちを考える。 (1) <u>アドバイスをしたときのさおりの</u>	・ 範読を聞いて資料の内容を理解させる。  ・ 場面絵を黒板に貼って、状況を具体的につかませる。 ・ 表情絵を使って主人公の気持ちの変化を捉えやすくさせる。  ・ ナミの言葉によって、気持ちに変化が現れるのを捉えさせる。

	<p><u>気持ちを考える。</u></p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">さおりはどんなことを考えて、ナミにアドバイスをしたのでしょ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私もナミちゃんの役に立ちたい。</li> <li>・ ナミちゃんに速くなってほしい。</li> <li>・ マラソン大会を二人でがんばりたい。</li> </ul> <p>(2) <u>最後まで走りきったときのさおりの気持ちを考える。</u></p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ゴールをして二人が両手を合わせたとき、さおりはどんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最後まで走れた。</li> <li>・ 友達っていいな。</li> <li>・ 今度はナミちゃんを目標にがんばりたいな。</li> </ul> <p>5 自分を見つめる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">友達がいてよかったなと思ったことはありますか。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自他の存在の大切さに気付き、お互いを大切にしていこうとする気持ちをもつ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">支 自分でうまく振り返ることができない児童には、色々な場面で思い起こすことができるよう声をかける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ナミに教えてもらうだけではなく、さおりもナミのために何かしたいという思いを捉えさせる。</li> <li>・ 友達に支えられていることや、お互いの良さを認めていることを考えさせる。</li> </ul> <p>支 二人で助け合って努力してきた成果が表れた言葉を引き出させる。</p> <p>支 ゴールをして両手をパチンと合わせる動作を行うことで、走り終えた喜びを感じとらせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理由やその時の気持ちを考えさせるようする。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">あ た た め る 3 分</p>	<p>6 教師の体験談をきく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思いをあたため、実践できるようにさせる。</li> </ul>

4 反 省

5 高 評